



中部大学春日丘高校 SGH課題研究「世界の現状を知り考える学習」

世界の現状と課題 ～グローバル・イシュー…何が問題？ なぜ問題？

第4回 貿易ゲーム～人権(貧困)～ 第5回 システム思考～環境(地球温暖化)～

● **実施日** ◆ 日時:2019年5月18日(土) 5月21日(火) 5月28日(火)

◎貿易ゲーム

各グループにそれぞれの内容物が入った封筒を配布し、ゲームのルールを説明する。各グループには異なった道具や素材が与えられており、それぞれで決められた製品を作る。製品を売ることでお金が得られ、できるだけ多くのお金を儲けることが目的である。

〈ルール〉

- ・各封筒に入っている文房具しか使えない。
- ・製品を世界銀行に収めると、所定の代金がもらえる。集計シートに記入され、現金での支払いはしない。
- ・製品の質次第では受け取らない場合がある。世界銀行から必要に応じて現金を借りることができる。
- ・製作に必要で自分のグループにないものは、他グループから借りることができる。(貸す時はお金を取る)



◎貿易ゲーム・全体のふりかえり

- ① グループの区分(A=先進国、B=中進国、C=途上国)、初期条件(グループの袋の中身)の違いを知る。
- ② 同じルールの下でもあらかじめ不平等な初期条件を設定することで、豊かなグループはより豊かに、貧しいグループはより貧しくなるように、経済格差が拡大していく仕組みを理解する。
- ③ 貿易ゲームのような構造(貧困・格差の固定化)が続くと、どんな影響があるか、派生図で考える。
- ④ この「不公平な構造」をなくすためには何が必要か、私たちには何ができるか、グループで考える。

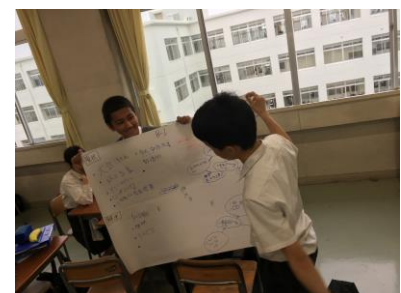
◎地球の課題・日本の課題とそのつながり

- ① 地球の課題・日本の課題
各自、「地球の課題」だと思ふこと、「日本の課題」だと思ふことをそれぞれ考え、付せん紙に書き出した。
- ② KJ法による分類・整理
グループ内で、書き出した付せん紙をカード式整理法(KJ法)でまとめた。また、各カテゴリー間のつながりや世界と日本の課題とのつながりを見つけた。



◎地球温暖化の背景を探る～温暖化ってどんな問題？～

- ① 地球環境クイズを配布し、グループで答えを考える。その後、答えと解説。
- ② 温暖化の原因と影響に関する資料を各自読む。



◎持続不可能な現状と持続可能な未来のギャップを埋める

① システム思考でテーマの掘り下げ…地球温暖化問題について、システム思考を使ってグループ内で分析する。

| システム思考による各問題の分析方法 | 現状 <リスト> | <派生図> | 影響 |
|--|---|---------|----|
| <p>【現状】 …テーマに関して、どんな問題が起きているか？何が問題となっているか？考える</p> <p>【影響】 …その問題を解決しないとどうなるか？多様な視点からその影響を考える</p> <p>【原因】 …それらの問題を作り出している原因や背景は何か探る</p> <p>【解決】 …問題を解決するために必要なもの、役立つことをなるべくたくさん考える</p> | <ul style="list-style-type: none"> • ○○○○○ • △△△△ • □□□□ • ☆☆☆☆ | | |
| | 解決 <リスト> | <因果関係図> | 原因 |
| | <ul style="list-style-type: none"> • □□□□ • ○○○○○ • ☆☆☆☆ • △△△△ | | |

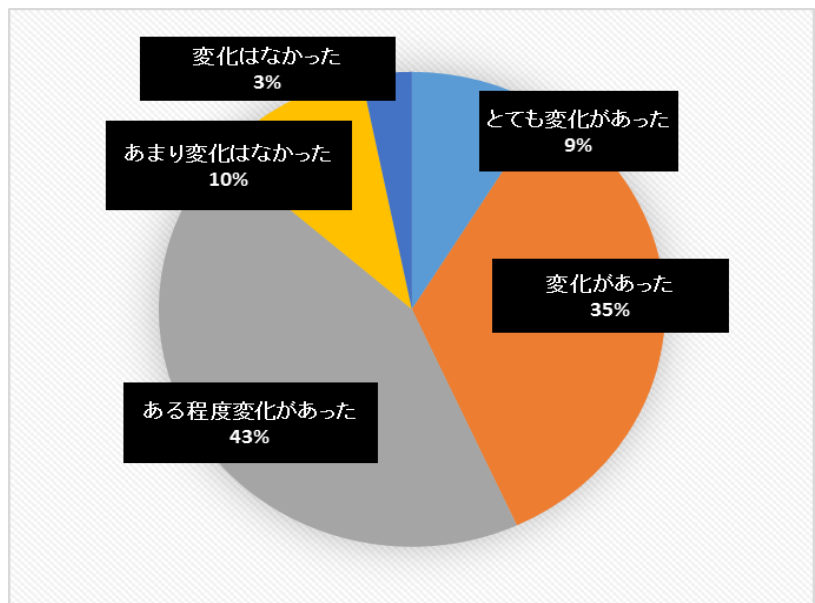
② 全体共有…グループで問題を分析してみてわかったことをプレゼンする。同じことの重複はさけて、いくつかのグループに付け足してもらう。

◎～全体ふりかえりアンケート結果～

● **問1:** 意識や行動のより良い変化の有無・程度

「カリキュラムAの授業を通して、自分の意識や行動に、より良い変化はありましたか」

87%が、授業を通して自分の意識や行動により良い変化があったと回答。



● **問2:** より良い変化の内容

「どのようなより良い変化がありましたか。」(複数回答)

質問項目

- | | |
|--|-------|
| 1. 開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった | 33.3% |
| 2. 自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった | 47.2% |
| 3. 自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った | 35.2% |
| 4. 自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった | 33.3% |
| 5. 学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った | 11.1% |
| 6. 話す・聞く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった | 30.6% |
| 7. 自らの生き方や共生について考えるようになった | 20.4% |
| 8. 自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった | 24.1% |

◇ 最も高い項目としては「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」(47.2%)であった。

◇ その他の各項目のうち、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」については 11.1%と8項目の中で、低い数値となった。今後の4領域学習のあと、Cカリキュラム以降は班ごとの主体的な活動が求められるため、その時期に変化が望まれる項目である。